



ぶどうのささやき

34号

2023年
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

観音崎自然博物館

あけましておめでとうございます

観音崎自然博物館は、観音崎観光株式会社により1953年に創立されました。世界で初めてマダイの陸上養殖技術を確認するなど輝かしい功績がありましたが、1978年には不採算部門として閉館が検討されたそうです。その時に「貴重な資料や技術の蓄積をなんとか残そう」と仲間が集まり社団法人として再出発、さらに公益社団法人となり現在に至っています。今も会員、ボランティア、地域の関係者などさまざまな方面から支えられています。

当館は東京湾口の美しい海と、観音崎公園の豊かな照葉樹林に囲まれています。展示のテーマは「東京湾集水域の自然と生き物」としており、里山の水生昆虫や淡水魚、海辺の生き物や海藻、観音崎の山野草、と生きている生物も展示しているのが特徴です。東京湾にそそぐ川の上流から河口、海岸、深海と多様な自然環境をもつこの地域の、豊かな自然と生き物を紹介しています。身近な物たちですが、大都市のすぐ近くにこのような多様な自然とたくさんの生き物が住んでいることは世界的にも珍しく、誇りに感じています。

またこれらの自然環境を活用し、海や公園内での体験学習や観察会を行っています。現地へ行ったり図書館で調べなくても手軽に情報が手に入り、バーチャルでの体験もできてしまう昨今ですが、やはり本物に触れることは大事な経験です。本物に触れ理解を深めるということは、博物館の大切な使命であると感じています。

体験学習や子供たちの調査チームの活動では、自分で採って採って観察・記録するという活動を重視しています。環境保全の観点から、採集してもよいのか、というご意見もあるかと思いますが、私たちは、子供は生き物を採ったりいじったりして遊ぶことが必要、と考えています。もちろん無制限に採集することはありませんし、観察したらもどす、としています。SDGsをはじめ環境問題が目の前にありますが、将来この問題を引き継いで解決していくのは

公益社団法人
観音崎自然博物館

館長 河野 えり子



今の子供たちです。そのための調査研究を行う人材に育てていくためには、バーチャルではなく自ら自然の中に飛び込んで活動するたくましさや好奇心やスキルを持ってほしいのです。

産業クラスター研究会に出会うきっかけは、2020年夏の「貝殻やドングリの工作教室ができる場所を探しています」という問い合わせでした。コロナで次々とイベントが中止になる中、子供たちのために何とか実施したいということで、当館の屋根付きの屋外で行うことになりました。子供たちは貝殻、木の実、ビーズなどたっぷりの材料と、グルーガンというカッコイイ道具を使って、真剣に作っていました。付き添いの保護者にも、住んでいる場所のハザードマップを使って防災の説明をサービスしていました。この「ものづくり教室」で博物館の前が賑やかになり、私たち職員もうれしく感謝しています。その後も何回か開催していただき、恒例となってきています。

近ごろ他団体との連携・協働をとの呼びかけを多く目にしますが、このような他の組織と協力することで成果を上げるという取り組みは、これから益々多くなっていくのでしょう。いろいろな形で協働し、博物館活動の活性と利用者アップを目指し、さらに日本の博物館業界の活性化につながればと願っています。

最後に、当館ではホームページやSNSで情報発信をしています。ぜひ「#観音崎自然博物館」で検索してみてください！

クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。





新春を迎えて



理事長 富野 養二郎



新年あけましておめでとうございます

平素より当会の活動に対し多大なご支援、ご協力を賜り深く御礼申し上げます。長きにわたるコロナパンデミックも3年目を迎えることになりました。

世界的にはウィズコロナ政策が拡がり、わが国でも渡航制限の解除がなされ、各種制限も緩和されつつありますがまだ人的交流等は元には戻っていません。

加えてロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、西側諸国によるロシアへの経済制裁の報復としてロシアからの原油やガスの供給が大幅に絞られ、ウクライナ産の穀物の輸出も戦火の影響で滞ったことにより世界的なエネルギー価格や穀物の高騰に見舞われ、我が国の経済や国民生活にも大きな負担としてのしかかっています。

また、昨年春以降の急激な円安もこれらに加わり、中小企業にとっては大変厳しい状態が続いています。

当会の活動も総会で決定した活動計画が昨年夏以降の感染再拡大を受け対面による企業支援やセミナーが再び困難になったことにより急遽Web形式に変更を行う等工夫を凝らしましたが当初目標としていた活動の多くが制約を受けること

となってしまいました。

しかしながら、このような困難な状況の中でも会員の協力により以下の活動を行いました。

1. SMS（持続性ある経営管理）支援事業部会

- ①横浜市より第三者評価機関の認定を受けて3件の施設の評価を完了
- ②資格獲得を目指す企業への支援の継続
- ③企業の知的財産権取得支援

2. 新しい公共支援部会

- ①一般市民課題解決のための「いまさら相談室」を毎月一回継続して開催
- ②観音崎自然公園でのもの作り教室の開催（11月：約60名の参加）
- ③情報セキュリティセミナー（10月）、インボイス制度セミナー（11月）のオンライン形式での開催

3. 海外関連事業部会

- ①企業の海外における知的財産権取得手続きの支援
- ②企業における英語圏からの外国人実習生実習資料の英訳支援

4. IoT研究会

- ①オンライン形式による勉強会及び導入企業探索

- ②他事業所・機関と連携した前期からの継続テーマのフォローとまとめ

5. 共通

従来からの課題であったNPO法人としての活動の原資は本来市民や企業からの寄付金であることが原則であるとの周知のためパンフレットを作成し、関係の皆様へ配布し募金活動を展開している。

この先、世界経済や政治が改善の方向に向かうのかは予断を許しませんが、今年は無支で言う「卯年」に当たり本来は飛躍の年、向上の年とされています。長く続いたパンデミックや欧州に突然降りかかった戦火が早く収束し、皆様にとって名実ともに飛躍、向上の年となりますよう祈念致しますとともに、今年も皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

【歳時記】女性の元気

視覚障害者にパソコンやiPhoneの使い方サポートするボランティアをしています。毎月第4土曜日の午前中に横須賀市立市民活動サポートセンターを利用して予約不要で無料のサポートを友達と過ごしています。

師走のある日、視覚障害者の生活支援を積極的にこなっている横須賀市内にある眼科の先生といっしょに4名の方が相談にいらいしました。逗子、葉山にお住まいの方でした。横須賀市には「横須賀市点字図書館」があって、視覚障害者の生活相談も細かく対応してもらえたりしますが、逗子と葉山には視覚障害者のサポート施設がないそうです。それで、私たちのところに来ました。70〜80歳代の女性の方です。

それぞれ個別にお話が聞きたかったのですが、時間もなかったため、個々のサポートではなく、皆さんのケータイの使い方を聞くことで、視覚障害者同士がアドバイスし合える場づくりをしました。

主旨のAさんの端末はiPhoneと、VoiceOverとSiriを使っていました。通話とときどきSeeingAIを利用してのことです。ダブルタップやスワイプなどの操作は慣れていますが、常用しているもの以外のアプリを使ったりすることはなさそうでした。そろそろiPhoneに買い替えようかと思っているガラケー利用者のBさんは、Aさんの「こうやってやるのよ」という実演の操作音に耳をかたむけます。そうして2時間があっという間に過ぎました。

ところで、みなさんとてもハツラツとしていらっしやるのです。我流でありながら、iPhoneでもガラケーでも、道具として使いこなしていっしょにやる。「もう一つできることを増やしたい」という強い気持ちを感じながら、とても楽しい時間を過ごしました。（野）



本の表紙をすぐに読み上げしてくれるアプリ

法人会員企業の紹介

菱和工業株式会社

(横浜ビジネス四方よし) を標榜する

製造業 → サービス業

多摩川を越えて、京急蒲田駅から 2 Km 東糀谷防災公園正面の 3 階建てのビルが菱和工業 (株) の本社・工場です。



1976 年南六郷の地で創業後、事業拡張に伴い、2001 年現在の地に本社機能と工場を統合しています。羽田空港も近く国内外のビジネス展開には良好な場所にあり、また歴史のある大田区の中小企業群との連携が容易であることが、菱和工業のビジネス・ドメインになっていると思われる。

菱和工業の事業内容は

菱和工業は精密機器の総合メーカーとして、多彩なノウハウを基に、トータル・ソリューションを追求。プロユースから 個人用までお客様の多様なニーズにお答えいたします。

と発信しているように、更なる技術開発、新製品開発に力を注ぐとともに、プラスチック、金属加工とエレクトロニクスが生み出す精密機器製品のトータルエンジニアリング先端企業として、社長を先頭に、少数精鋭の体制で、各自がその固有技術を活かして新商品の試作、量産立ち上げに取り組んでいます。

各自の固有技術を高めながら、それを連携して仕事をまとめていくやり方を外国人労働者の育成にも取り入れ、ここで学んだベトナム人は、現在ベトナムの関連会社の責任者になっています。日本の中小企業の仕事のやり方で人材を育成し、その人材で母国の事業を成立、継続できているのは、何処に強みがあるのでしょうか？ 多くの企業が人件費の安さなどで海外進出して失敗している事例が沢山あります。製造業が成功する基本は他社と比較して、QCD(品質・コスト・納期)において優位であることですが、菱和工業は、それに加えてビジネスの基本理念として、人とのご縁を大切に、「横浜ビジネス四方よし」を信奉し実践されていることと思われる。

註：宮崎正男氏 当会元個人会員、「横浜ビジネス四方よし」を提唱し、2019 年「喜働塾」を立ち上げる。2022 年 2 月没(89 歳)。

RYOWA

菱和工業株式会社

本社・工場

東京都大田区東糀谷 5-20-19

(電話) 03-3745-0721

(FAX) 03-3745-5805

<http://www.ryowa-kogyo.co.jp>

代表取締役 大村 裕司



<大村社長の思い>

製造業という立ち位置ではありますが、“**弊社はサービス業である**”という理念のもと事業活動を行ってきました。

製造現場での困りごとを解決する企業として“**ものづくり 110 番**”というサービスを行っております。弊社は尖った技術を追い求めるのではなく、社員それぞれの知識や技能、そして弊社を支えてくれる数多くの企業様と共に幅広いモノづくりサービスを志しております。

また、弊社では長年にわたりベトナムからの従業員が勤務しています。当初はなかなかコミュニケーションが取りづらいこともありましたが、今では弊社にとって欠かすことのできない存在となり、様々な業務の中心的な人材として活躍をしてくれています。人材確保の難しい中小企業にとって彼らの存在はとても大きく、技術者不足の一環として採用したベトナムの技術者も、今では弊社ハノイ工場の責任者として活躍をしてくれています。そのハノイ工場も昨年 10 周年を迎えることができました。

尊敬する大先輩、宮崎正男氏の言葉「**横浜ビジネス四方よし**」を心に刻み、**売手よし・買手よし・世間よし・自然よしの実践**と、新たなマーケットを創出するために人とのご縁を大切に、智慧を出しあい、協業していく経営を実践していきます。

大村 裕司

(インタビュー：伊澤 俊夫、片平 悌一)

事業活動紹介

SECURITY ACTION について

個人会員 樋谷 祐一



SECURITY ACTION 制度創設の背景

IT化の進展に伴い、企業の情報資産の窃取や業務妨害を狙ったサイバー攻撃・犯罪は巧妙化・悪質化しており、これ等のターゲットは政府機関や大手企業だけでなく、近年では中小企業にまで拡大しています。

IPA*が実施した調査によると、約80%の中小企業が情報セキュリティに対する脅威を感じている一方で、約半数が自社の情報セキュリティ対策が十分でないと感じています。サイバー攻撃・犯罪はさらに拡大する懸念も指摘されており、中小企業における情報セキュリティ対策の普及加速化は喫緊の課題となっています。

注*：IPA：独立行政法人情報処理推進機構

SECURITY ACTION 制度

このような背景を踏まえ、IPAと中小企業関係団体は2017年2月「中小企業における情報セキュリティの普及促進に関する共同宣言」を行い、自発的な情報セキュリティ対策を促すための核となる取組として「SECURITY ACTION」を創設しました。これは中小企業自らが情報セキュリティ対策に取り組むことを自己宣言する制度で、2段階の取り組み目標が用意されています。

情報セキュリティに企業として本格的に取り組むにはISO27001 或いは神奈川印刷工業組合の印刷業を対象としたPISM（情報セキュリティ・マネジメント・システム）等の認証取得が望ましいのですが、ハードルがあるので、もう少し手前の段階で取り組みやすい制度としたものです。

産業クラスター研究会は中小企業の法人会員や支援企業、PISMや第三者評価で審査対象施設の情報資産を扱うこととなりますので、このたび情報セキュリティに自主的に取り組むことを決定し、12月18日にSECURITY ACTIONのロゴマーク取得を申請

し、12月23日からの使用を許可されました。まず、一つ星のロゴを取得し、次の段階で二つ星を目指します。

1 段階目：一つ星

中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン付録の「情報セキュリティ5か条」に取り組むことを宣言した中小企業等であることを示すロゴマークです。



2 段階目：二つ星

中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン付録の「5分でできる！情報セキュリティ自社診断」で自社の状況を把握したうえで、情報セキュリティポリシー（基本方針）を定め、外部に公開したことを宣言した中小企業等であることを示すロゴマークです。【二つ星のロゴマークは、上記の一つ星のロゴマークの星「★」が「★★」になる。】

SECURITY ACTIONの手続き方法の詳細はIPAのHPを参照ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/security-action/index.html>

SECURITY ACTION のメリット

- 1) SECURITY ACTIONにより、企業として情報セキュリティに必要な行動をとっていることを、SECURITY ACTION 一つ星または二つ星のロゴマークでHPや名刺その他で示すことができます。
- 2) SECURITY ACTIONをIPAに申請し、承認を得ていると、IT補助金申請時の必須項目を満たし、申請することができます。

ロゴマークの申請費用やロゴ使用料は無料です。申請後の承認期間は手続き完了後、1～2週間です。

イキヌキ イキガイ 趣味の散歩

みなとみらい・おもしろ科学散歩

個人会員 長嶋 みさき

忘れていた子供心や、科学的な好奇心を満たしてくれる面白い場所が、横浜みなとみらいにはあります。どこも見学に長い時間を要するものではないので、一日に全てを見回することもできますし、観光や食事の合間に覗きに行くこともできます。

ここに紹介する三つの施設は歩いて回ることができるので、天気の良い日の散歩道としてはうってつけです。いつもと違う高揚感が出て、みなとみらいにちょっとした思い出ができるかも。

<京急ミュージアム>

2019 年に京浜急行電鉄本社が泉岳寺からみなとみらいに引っ越したことに伴い、翌年本社 1 階に京急ミュージアムが開設されました。ここを訪れる人たちの目当ては、京急沿線を模したジオラマ。それほど大きいものではないので、最初はすぐに見終わるつもりで入館するのですが、自宅の最寄り駅だとか遊びに行く場所など、なじみのある風景を見つけると嬉しくなって、その細かい仕事に写真の枚数が激増していきます。

ジオラマの隣に置かれている京急デハ 236 号の歴史的



な車両の中には懐かしい資料が展示されていて、京急の昔の社名や今はない駅名が載った路線図などにはつい見入ってしまいます。

<三菱みなとみらい技術館>

ランドマークタワーの隣にある三菱みなとみらい技術館には、テーマパークのような楽しさがあります。三菱重工が関わった作品とそのレプリカの展示場となっています。空ゾーン、宇宙ゾーン、海ゾーンの常設展示コーナーでは、宇宙ロケットや宇宙服、深海探査機しんかい、生産中止



となったもののジェット旅客機の MRJ など、見て触って、操縦席を疑似体験することも可能です。

また映像展示も興味深いものが数々行われています。大スクリーンで、しんかいが泡を立てて海中深く沈んでいく気分を味わいながら、そこに暮らす珍しい生物を知る機会にもなります。楽しんだ後はグッズ売り場でお土産を一つ二つどうぞ。

<コニカミノルタ・プラネタリア横浜>

ここが普通のプラネタリウムと違うのは、エンターテインメントに重点を置いていること。月ごとにテーマの違う 2 作品を上映します。とにかく映像の美しさが圧巻で、自分が宇宙に行ったような気になってしまいます。嬉しいのは撮影が可能ところで、ナレーターが撮影ポイントを的確に教えてくれます。



併設のカフェで買った飲食物はプラネタリウム内に持ち込むこともできますが、展開されるプログラムは飲食する暇がなくなるほどの迫力になる場合があるので、ご注意を。

(掲載写真はすべて筆者撮影)

トピックス

横須賀の自然を楽しむ「ものづくり教室」の開催

昨年11月 横須賀市の特定非営利活動法人補助金「元気ファンド」で“「明日を担う子供達とその家族」に横須賀をアピールする事業”として県立観音崎公園内の自然博物館前で、子供たちを対象にした「ものづくり教室」を開催しました。

毎年秋に開催していますが今回で3回目。当初予定した日が生憎の雨で中止、一週間後の開催となりました。午前中は風が強い中でスタートでしたが午後には風もおさまり好天の中例年通り約60名の親子が参加。来訪者は横浜から来た家族が多数いました。

今回も貝殻、シーグラス、松ぼっくり、どんぐり、竹材など園内にもある自然の恵みを組み合わせ、子供たち独自に作品を

作り上げ楽しんでいました。付添の父兄には三浦半島の防災状況について知ってもらう「防災教室」も展示・紹介しました。

会場は神奈川県立観音崎自然公園の東京湾入口に面した観音崎自然博物館前、房総半島は指呼の間。海、山の自然を楽しむことができると同時に大型のコンテナ船が行き来する海上交通の要所とも云える所で船の様子も楽しめます。いつもの通り観音崎自然博物館の皆さまには場所の提供をはじめ大変お世話になりました。(新しい公共支援部会 佐々木 興吉)



事務局からのお知らせ

2022年度下期は次に記載の通り精力的に公益事業に取り組んでいます。

- 2022年10月27日 企業向け「第7回情報セキュリティセミナー」をオンラインで開催。
- 2022年11月17日 神奈川県主催のパートナーシップ・ミーティングに当会から3名が参加。他団体との協働事業についての意見交換や情報交換を行いました。
- 2022年11月18日 企業向け「インボイス制度」セミナーをオンライン併用で開催。講師は専門の税理士にお願いし活発な質疑応答があり好評でした。
- 2022年11月26日 生涯現役フォーラム。横須賀市立市民活動サポートセンター、横須賀市生涯学習センター等主催の展示会と体験教室に参加し、当会の各部会の活動を紹介しました。20団体が参加し、来訪者とは新たな接点を得る機会となりました。
- 2022年11月27日 観音崎公園において2022年度よすか元気ファンド事業「ものづくり教室」を開催しました。詳細は本誌トピックスを参照ください。
- 2022年12月1日 横須賀市立市民活動サポートセンターと共催でミニセミナー「スマホのセキュリティは大丈夫」を開催。定員一杯の市民の皆さんが参加し好評でした。
- 2022年12月9日 第2回理事会を開催し2022年度上期活動実績と下期活動状況を報告しました。
- 2022年12月23日 予てIPAに申請中のSECURITY ACTION ロゴマーク(一つ星)の使用が許諾されました。
- 2023年2月 「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間」事業として地域の企業の皆さま向けにセミナーを開催する予定です。内容は別途ご案内します。多数の参加をお待ちしています。
- 新入会員の紹介 個人会員 三柴泰男(横須賀市)

(事務局 佐々木 興吉)

羅針盤

観音崎自然博物館長の巻頭言にも紹介されているように、ものづくり教室を自然博物館殿のご協力を得て実施しました。これは横須賀市のNPO補助金「元気ファンド」に基づく事業で、今年で3回目を迎えました。コロナ影響も残る中、多くの親子の参加を得て、秋の事業として定着してきました。

今回の法人会員紹介は東京都大田区の菱和工業様ですが、同社大村社長の経営に当たったの基本理念「横浜ビジネス四方よし」は、当会元会員の故宮崎正男氏が同氏の主催する喜働塾で提唱された理念を継承されています。このように先達の思いが繋がっていくのを目の当たりにし、われわれ後輩も頑張らないとの思いを新たにしました。

「みなとみらい科学散歩」、ミュージアム巡りは都会ならではの楽しみです。観音崎も自然博物館の近くに横須賀美術館があります。三浦半島の自然に詳しくなった後は、やはり三

浦半島に縁のある作家を中心とした近代美術でさらに教養を高めましょう。

11月は各種セミナーやイベント参加で大忙しの1ヶ月でした。インボイス制度について、そしてスマホを含む情報セキュリティに関する啓発セミナーなど、時宜を得た企画だったと思います。この手の企画は一度の聴衆が少なくても、繰り返し実施することで必要な人に情報を届けることができるので、採算に囚われないNPOの役割かもしれません。また、セキュリティアクションにも繋がる活動でもあります。

コロナ第8波とも言われていますが、ワクチンの普及とも相まって重症化リスクが大幅に低下しており、日常に戻りつつあります。注意は必要ですが徒に恐れるのではなく、支援活動を積極的にしてまいります。(仲)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号
Tel & Fax : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp
横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号
連絡先 : 046-847-6355 E-mail : yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：富野 養二郎